

災害対応講演会を開催

西日本豪雨 その時総社市議会はこう動いた

6月21日、総社市議会より加藤保博議長を講師にお招きし、災害対応講演会を開催しました。

「西日本豪雨 その時総社市議会はこう動いた」と題し、災害対策本部とのやりとりや議会が自発的に動くことを決めた経緯など、未曾有の事態を前向きに乗り越えた経験を踏まえ、議員に必要な心構えなどを表情豊かにご教示くださいました。

「大規模災害被災地支援に関する条例」を制定するなど、被災前から災害に対する高い意識を持っていた総社市。しかしながら、被災当初は議員の誰もが「まさか総社が…」と口を揃えたそうです。

気がつけばマニュアルもなく、何をすればいいのかわからない。手当たり次第に土かきをして走りまわり、たどり着いたのは「これではいかん」という現実。職員やボランティアが休みなく活動する中、自分たちに何ができるのかを考え、自ら災害対策本部に赴いたという加藤議長。

その後は支援物資の積み下ろしや仕分けなど議会が担う働きを自主的に見つけ、本格的に動き始めたとのことでした。

いつ、どこで起こるかわからない自然災害。市議会においても全体的意識を高め、備えてまいります。



総社市議会 加藤保博議長



海でつながるせとうち備讃諸島

岡山県と香川県の間に展開する【備讃諸島】。

大小無数の島々が織りなす多島海景観。島には平地が少なく、山肌から海岸まで至るところで巨石がむき出しになっています。

瀬戸内備讃諸島の花崗岩と石切り技術は、古くから日本の建築文化を支えてきました。日本における近代洋風建築の象徴ともいえる日本銀行本店本館、三井本館、明治生命館。また古くは近世城郭の石垣を代表する大坂城の石垣など、日本のランドマークとなる建造物が、この備讃諸島の石と技術によって築かれています。

島々には、400年にわたって石と共に生きてきた人たちの希少な産業文化が息づいており、今もなお、石にまつわる信仰や生活文化、芸能が継承されています。

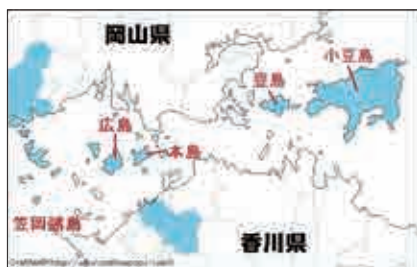
日本遺産に認定！

令和元年5月20日、丸亀市の本島町・広島町、高松市小豆島町・豊島、岡山県笠岡市高島・白石島・北木島・大飛島・真

鍋島が共同で申請していた「石の島」のストーリー「知ってる!?悠久の時間が流れる石の島々海を越え、日本の礎を築いたせとうち備讃諸島」が日本遺産に認定されました。

日本遺産とは、日本各地に存在する有形・無形の文化財を、その地域の歴史的背景からめた一つの「ストーリー」として文化庁が認定するものです。2015年に始まり、これまでに四国遍路や井波彫刻などが認定を受けています。

今回の認定のみならず、瀬戸内国際芸術祭などたくさんの方々の見どころに溢れている瀬戸内の島々。この議会だよりでも、今後ぜひご紹介できればと考えています。



本島

## 永年勤続9名に表彰状を伝達

6月11日、東京都で開かれた第95回全国市議会議長会定期総会、並びに、5月23日、高松市で開かれた第81回四国市議会議長会定期総会において、各表彰規定に基づき、本市議会より9名の議員が表彰されましたので、今期定例会で表彰状を伝達し、その功績をたたえました。

### ◆全国市議会議長会

《議員在職10年》 加藤 正員  
片山 圭之  
《議員在職15年》 横田 隼人  
《議員在職20年》 横川 重行  
松浦 正武  
大前 誠治  
国方 功夫



### ◆四国市議会議長会

《議員在職16年》 中谷真裕美  
山本 直久  
《議員在職20年》 横川 重行  
松浦 正武  
大前 誠治  
国方 功夫



## 人事案件

今期定例会に提案された人事案件は次のとおり（敬称略）。

### ▼公平委員会委員

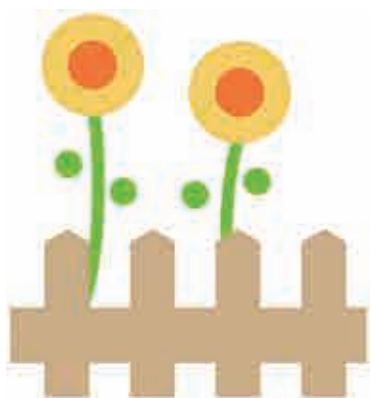
高松市 勝丸 千晶

### ▼監査委員（議員選出）

土器町 水本 徹雄

### 香川県後期高齢者医療 広域連合議会議員の変更

（旧）松浦 正武  
水本 徹雄  
（新）横川 重行 ←  
中谷真裕美



永年勤続表彰

## 広報広聴委員会 委員の選任

議会だよりの編集、議会ホームページ、議会報告会など議会の広報業務を担当します。

### ◎委員長 ○副委員長

◎福部 正人 ○神田 泰孝  
武田 孝三 東 由美  
大西 浩 香川 勝  
三宅 真弓 水本 徹雄



広報広聴委員会

# 丸亀城石垣復旧を市民の皆さまと共に

丸亀城復旧復興特別委員会

## 6月13日応急対策工事完了

昨年7月・10月の丸亀城石垣崩落を受け、市議会に設置した「丸亀城復旧復興特別委員会」では、これまで市に対し早急な復旧工事に向けての意見や要望を行ってきました。

市ではこれまで、さらなる崩落を防ぐための応急対策工事を行ってりましたが、梅雨に入る前の6月13日、工事を完了したとの報告がありました。

今後、崩落の原因究明、本格復旧工事へと取りかかります。復旧には、約6000個の石の積み直しが必要で、2023年度末の完成を目標にしています。

議会は、市民の皆さまと共に復旧復興事業を進めていきたいと思っております。ぜひ、ご意見などをお寄せください。



7月豪雨・10月台風による崩落



斜面安定・表面排水処理



石垣撤去

## 特別委員会活動報告

### 石垣復旧事業報告会

7月7日、市主催「第1回丸亀城石垣復旧事業報告会」に参加しました。



第1回丸亀城石垣復旧事業報告会

### 現地視察

4月9日、市対策本部各分科会から取り組み状況の報告を受けた後、石垣崩落現場の現状を確認するため、視察を行いました。

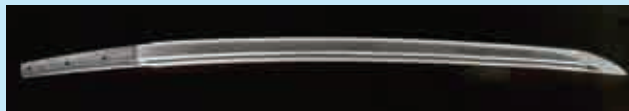


崩落現場の現状を確認



石垣亀裂箇所(ゲージ設置)

「ニッカリ青江公開プレミアムウィーク」(6月1日～9日)には全国から「刀剣女子」ら約7,300人が訪れました。「ニッカリ青江があるから丸亀が好き」「恋人に逢いにきました」という声。丸亀城の新規ファン層獲得にもつながっています。丸亀城石垣復旧に向けて資料館で開催されたこのイベント。たくさんの募金が集まりました。ありがとうございました。





# 「シティズンシップ」 の苗を植えたい!



**編集委員**：編集長、市内のいくつかの小学校では、田植えの体験をやっているんですね。

**編集長**：うん。ご近所の方々の力を借りて、普段子どもたちが入ったことのない田んぼの中へ「きゃ〜」とか言いながらおそるおそる入り、きれいに苗を植えている。

**編集委員**：秋の収穫が楽しみですよね。

**編集長**：この「議会だより」が届くころには、



地域の皆さんと 田植え体験

子どもたちの植えた苗も青々と成長しているだろう。しかし収穫までには農家の人たちがたくさんの手間暇をかけている。子どもたちが育つのとそれは同じかも知れない。

**編集委員**：なるほど。愛情を注ぐことが大事ですね。

**編集長**：そうだね。ところで、春の県議選での18、19歳の投票率というのがここにある。

**編集委員**：いきなり、何ですか？

**編集長**：まず見てよ。県全体では19.49%。丸亀市では15.26%だったとある。

**編集委員**：深刻ですね。田植えで歓声を上げていた子どもたちもほとんど有権者になるのに、みんな投票に行かないのかなあ。

**編集長**：投票率に一喜一憂するというより、政治に参加する市民がこんなに少なくないのか、と心配になる。

**編集委員**：「誰を選んでいいのかわからない」と

か「自分ひとりが行かなくても」というムードもあるようです。

**編集長**：そうだ。情報があふれている世の中だけど関心がなければ調べようもしない。教育が「政治的中立」を確保しつつ、子どもたちに政治参加を身につけてもらうことが必要になってきたのではないかな？

**編集委員**：「シティズンシップ教育」ですね。

**編集長**：もちろん家庭で、政治が話し合われる環境も大事だ。その上で、「一票に責任を持つ」ことを学校で教えることが各地で始まっている。民主主義というものも、その「手間暇」をかけないと育たない。

**編集委員**：この「議会だより」も、それに一役買えたらいいですね。

**編集長**：そのとおり。シティズンシップ教育でいちばん重要な役目を持つのは「議会」そのものだと言える。議会報告会や意見交換会の開催などで「飛び出す」議会を目指していきたい。

**編集委員**：そうか。田んぼの苗も子どもたちも、私たち議会も成長しなければいけないんですね！

**編集長**：いいこと言うね。この「編集室」は今回で完結。次号のこのページには、議会の各委員会がその「飛び出す」姿をお目にかかる予定だ。

**編集委員**：お楽しみに！

**編集長**：私たち議会も「大いなる収穫」を目指そう!!

## 編集後記

市議会の広報広聴委員会に所属して間もなく、丸亀高校での同校生徒会などの代表メンバーとの意見交換会に参加しました。タイトルは「参政権あるのに議会のことなんも知らねえじゃん」。生徒の意見の中には、「家族の団らんで、政治の話をしたときに親の考えは参考にしたたりする」「政策をわかりやすく知らせてほしい。学校に議会の広報等貼りだすことはできないのか」「ツイッターはよく見るので有効でないか」など、10代の投票率を高めるには、保護者や市長および議員の関わりが大きなカギを握ると感じました。

今回体験できたアウトリーチ（出張サービス）型の意見交換会を、今後の議会報告会に活かしていければと思います。

広報広聴委員長

福部正人